



No. 78

# The University of Tokyo Forests News 科学の森ニュース

June 10, 2017

発行：東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林

## 食文化・チョコレート研究者とショコラティエが温室カカオを収穫

樹芸研究所

樹芸研究所とメリーチョコレートとは、カカオの共同研究を行っています。これまで、研究所の温室産カカオを原料にゼミ学生が製造に携わったチョコレートを市販し、学園祭や市民公開セミナーのビントウバー体験企画にご指導・ご協力いただくなどの実績があります。先日、このご縁から食文化・チョコレート研究者の小椋三嘉氏とメリーチョコレートのショコラティエ大石茂之氏が、カカオ収穫とヴァニラなど温室で育成している植物の視察を行いました。小椋氏からは、「豊かな自然をいかした体験型教育プログラムを始め、これほど贅沢な教育を受けられる学生のみなさまを羨ましく思います。また、新手法で仕上げられたヴァニラの質の高さは想像を超えるもので、是非とも成果を世界に広めていただきたい。」とのコメントをいただきました。



収穫したカカオを手に記念撮影（左から鴨田所長、小椋氏、大石氏）

## 山中湖村との地域交流に関する 協定締結式

富士癒しの森研究所

2017年3月7日、富士癒しの森研究所と山梨県山中湖村との間で、地域交流に関する協定の締結式がとり行われました。締結式では山中湖村・高村文教村長と浅野友子所長が署名捺印を交わしました。

この協定では、森の保全及び整備・自然保護に関すること、森と教育に関すること、森と健康・癒しに関すること、森と観光に関すること、森と暮らしに関すること、などについて、お互いに協力して取り組んでいくことが確認されました。

今後、この協定を足がかりとして、山中湖村と研究所がいっそう協力して、保養地・山中湖村の森がこれまで以上に活かされるような様々な取り組みをしていく予定です。



署名を交わす高村村長（右）と浅野所長（左）

## 一般公開「春の郷台畑へ行こう！」開催

千葉演習林

千葉演習林では2017年4月22日（土）・23日（日）に一般公開「春の郷台畑へ行こう！」を開催しました。清澄ゲートから郷台畑までの公開コース（往復約14km）を歩くのは今回で2回目となります。当日は林道沿いのミツバツツジや郷台畑の八重桜も満開となり、2日間で57名の参加者が新緑と花のハイキングを満喫されていました。当日の郷台畑の様子は千葉演習林の公式Facebookページでも公開しています。随時更新していますので、ぜひ一度覗いてみてください。



八重桜が満開の郷台畑  
(苗圃ではマツ材線虫病抵抗性マツを育苗中)

## 「山部国際宿泊施設」がオープン

北海道演習林

近年、演習林全体で海外からのインターンシップやサマースクールなどの受け入れが増えてきており、宿泊施設の国際対応が進められています。北海道演習林でも、留学生などによる長期滞在の希望が増加していることから、このたび新たな宿泊施設を設け、4月より運用を開始しました。

「山部国際宿泊施設」と名付けられたこの施設は、2軒長屋の職員住宅1棟を全面的に改修したもので、定員は計8名の洋室です。オール電化で、家具・家電・食器類を備え付け、LANも敷設されています。快適な長期の滞在により、国際的な教育・研究を支えます。



山部国際宿泊施設の室内

演習林では、社会貢献活動も重要な業務の一つとして、様々な公開講座やイベントを開催しています。生態水文学研究所では、犬山市内の小学校で開催している探鳥会に、講師として技術職員を毎回派遣しています。鳥の活動が活発になる朝に児童が集まり、講師の指導の下指定されたコースをゆっくり歩き、見つけた野鳥を記録していきます。講師が「あそこに鳥がいるよ」と言うと、児童たちはすぐに双眼鏡をのぞきこみます。見つけられた鳥の名前をそれぞれメモしておきます。最後にみんなで集まって、どんな鳥が見つかったか、何羽確認できたかを集計するため見つけた鳥を報告しあう「鳥合わせ」をします。犬山市は田んぼ・池・林・住宅・草むらなど環境が豊富なため、いろいろな種類の鳥の観察がしやすい地域です。春になると子育て中のツバメやケリ、冬には北から渡ってくるコガモやツグミなど、季節によってみられる鳥の変化を楽しむのも探鳥会の魅力です。現在、生態水文学研究所が講師を派遣しているのは、犬山市立今井小学校と犬山市立城東小学校の2校です。今井小学校は学校全体で野鳥観察に力を入れており、講師よりも詳しい児童がいるほど。上級生になると慣れたもので、遠く離れた野鳥の動きや鳴き声だけで名前がわかる児童もいます。今井小学校の探鳥会は歴史も古く、昭和48年ごろから続いています。現在、この40年以上続く観測記録の利用方法を検討しているところです。



犬山市立今井小学校、夏の親子探鳥会の様子

### 演習林のイベント情報

詳細はホームページをご覧ください。各地方演習林にお問い合わせください。

#### 【6月】

- 3-4日 総合科目「森林環境資源学」(ダムと森林) ☆ (生水研)
- 3-4日 全学体験ゼミナール「人の手で造り管理する森林」 ☆ (生水研)
- 4日 子ども樹木博士認定会 (田無)
- 4日 全学体験ゼミナール「都市の緑のインタープリター養成」 ☆ (田無)
- 10日 とよた森林学校「森林セミナー」(生水研)
- 10-11日 総合科目「森林環境資源学」(森と癒し) ☆ (富士)
- 17-18日 総合科目「森林環境資源学」(森の最終形) ☆ (千葉)
- 18日 公開セミナー (北海道)
- 25日 千葉県森林インストラクター会「東大演習林を学ぶ会」 ◆ (千葉)
- 27日 利用者交流会 ◆ (田無)
- 未定 千葉演習林ボランティア会 Abies「下刈り」 ◆ (千葉)

27-29日 附属中等教育学校生物部「夏季生物教室」 ◆ (千葉)

31-8月2日 高校生のための森と海のゼミナール  
～大学の先生と考える環境問題と生物多様性～ ◆ (千葉)

#### 【8月】

- 1-5日 全学体験ゼミナール「森に学ぶ(ふらの)」 ☆ (北海道)
- 4-5日 公開講座「東大の森林で昆虫採集」(秩父)
- 7-11日 全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ(夏)1」 ☆ (樹芸)
- 18日 君津市スクールミュージアム坂畑小学校「職員研修」 ◆ (千葉)
- 20日 シデコブシの会「夏の植物調査会」(生水研)
- 21-25日 全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ(夏)2」 ☆ (樹芸)
- 29-9月1日 全学体験ゼミナール  
「フィールドで考える野生動物の保護管理」 ☆ (千葉)

#### 【7月】

- 8-9日 全学体験ゼミナール「君はスギ・ヒノキのことを  
本当に知っているのか? (入門編)」 ☆ (千葉)
- 9日 大麓山ハイキング登山会 (北海道)
- 22-23日 全学体験ゼミナール「癒しの森と地域社会」 ☆ (富士)

凡例…無印：一般向け ☆：学生向け ◆：その他

## 科学の森の動植物紹介

アブラチャン  
クスノキ科クロモジ属  
学名：*Lindera praecox*

富士癒しの森研究所

クロモジの仲間の雌雄異株の低木で、富士癒しの森研究所に春を告げる植物です。



葉芽に先立って花芽が開きます

ぽっぽとはじける無数のちいさな花が、冬枯れした林間をいち早く彩ります。枝葉をもむと独特の匂いがありますが、クロモジのように甘いものではありません。漢字で書くと油瀝青。「瀝青」(れきせい)は天然アスファルトやタールなどを指し、油分を多く含む本種の特徴があらわされています。かつては実を絞って採った油を燈火に使ったり、生木でもよく燃えるので焚き付けに使ったりしました。

## 名所名物案内

### 天然林施業試験地

北海道演習林

北海道のへそ、富良野市。そこには東京大学が22,715 haもの広大な森林を所有しており、北海道の針広混交天然林における施業や森林生態系の持続的管理に関する大規模な実験を行っています。実験に伴って様々な固定試験地が設けられていますが、その一つに「天然林施業試験地」があります。

天然林施業試験地は、施業過程における林分の量的・質的推移の記録と解析を目的として、1929年から順次設定されました。1981年には台風による甚大な被害を受けて29箇所が廃止されましたが、現在、様々な林域の97箇所に設定されています。データはこれまでに最も多い所で14回分(57年分)が蓄積され、とても貴重な『財産』となっています。

管理と測定は、胸高直径5.0 cm以上の全ての樹木を対象として、各個体の樹幹にステンレス製の番号札を取り付けて個体管理を行い、5年ごとに雪の無い5～10月に樹種・生死・胸高直径などを記録します。伐採が行われた場合は伐採木と支障木(伐採の妨げとなるために伐られた木)の確認を行います。これらの測定結果から、林分蓄積や伐採量・枯損量、成長量が施業の有無や履歴とともに長期にわたって把握され、天然林の動態解明はもとより施業法の考究に役立っています。



身の丈まであるチシマザサ。  
移動も一苦労。

科学の森ニュース (The University of Tokyo Forests News)

第78号 (No. 78)

発行日 平成29年6月10日

発行人 富樫一巳

編集人 後藤 晋

〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1

東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林広報情報委員会

TEL 03-5841-5497 FAX 03-5841-5494

E-mail mori2017@uf.a.u-tokyo.ac.jp